平成２８年度第３回

藤島地域振興懇談会次第

平成 29 年 2 月 21 日 10:00
藤島庁舎 202･203 号会議室

１．開　　会

２．会長あいさつ

３．協　　議

（１）平成２９年度藤島庁舎主要事業について　資料１

（２）平成２９年度藤島地域活性化事業について　資料２

①人と環境にやさしい農業推進事業

②庄内農業高等学校地域連携事業

③鶴岡伝統芸能祭開催事業

④藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業

（３）その他

４．閉　　会

藤島地域振興懇談会委員名簿

区分	所属	役職	氏名	備考	
公共的団体	藤島町内会長連絡協議会	会長	上田　　実		
	庄内たがわ農業協同組合	代表理事専務	田中　壽一		欠席
	出羽商工会	会長	上野　隆一	会長	
	藤島地区民生児童委員協議会	会長	半澤　正昭	H28.12.1	
	藤島地域小中学校PTA連合会	会長	押井　一之		欠席
	藤島体育協会	会長	佐藤　耕喜		欠席
	藤島老人クラブ連合会	会長	大井　　茂		欠席
	藤島地域婦人会	会長	髙山千代子		
	出羽商工会女性部藤島支部	支部長	五十嵐笑智子		欠席
	庄内たがわ農業協同組合藤島支所女性部	部長	小野寺菊子		
	鶴岡市消防団藤島方面隊	隊長	富樫　正明		
	因幡堰土地改良区	理事長	冨樫　達喜	副会長	欠席
有識者	公募委員		奥山　康光		欠席
	公募委員		佐藤　二美		

任期：平成２７年７月３日から平成２９年３月３１日まで

オブザーバー

所属	役職	氏名	備考
山形県立庄内農業高等学校	農場長(農業課長)	笹原　俊明	

市職員出席予定者名簿

平成２８年度第３回（平成29年2月21日）

所属	役職	氏名	備考	
藤島庁舎	支所長	佐藤　正規		
藤島庁舎　総務企画課	課長	本間　光夫		
藤島庁舎　市民福祉課	課長	叶野　明美		
藤島庁舎　産業課	課長兼エコタウン室長	小林　正雄		
建設部　東部建設事務室	室長	太田　　実		
農業委員会	事務局長	小田　　仁		
企画部　地域振興課	地域振興専門員	本間　育子		
藤島庁舎　総務企画課	課長補佐兼総務地域振興主査	井上　克浩		
藤島庁舎　総務企画課	総務地域振興専門員	齋藤　　芳		欠席
藤島庁舎　総務企画課	専門員	叶野　　進		

平成29年2月21日 10：00
藤島庁舎２階202・203号会議室

平成２８年度第３回

藤島地域振興懇談会席次

会　長

入口

小野寺菊子 委員

富樫　正明 委員

佐藤　二美 委員

笹原　俊明 先生
庄内農業高校
農場長（農業課長）

上田　　実 委員

半澤　正昭 委員

佐藤　耕喜 委員
（欠）

髙山千代子 委員

市民福祉課長	支所長	総務企画課長	産業課長
叶野明美	佐藤正規	本間光夫	小林正雄

総務企画課長補佐	東部建設事務室長	農業委員会事務局長	地域振興専門員
井上克浩	太田　実	小田　仁	本間育子

総務地域振興専門員	専門員
齋藤　芳	叶野　進

入口

傍　聴　席

資料１

平成29年度 藤島地域主要事業

（総務企画課）

１　藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業　　［詳細：資料２］

平成２７年７月に開園した「藤島歴史公園」を藤島地域のシンボルとして、テーマ性のある重要な観光資源と位置づけ、観光拠点として活用を図る。

そのため、ふじが開花する３～４年後（３０～３１年）に照準をあわせ、見ごたえのあるふじを育成し、ふじの花見時（５月中旬）のライトアップや、ふじのオフシーズン時（秋から冬場）にイルミネーション等を設置することにより、季節に応じたふじをメインとした公園としての魅力アップを図り、地域・観光団体・行政・ボランティア等が連携して、まつりやイベントを開催するなど、地域の特性を最大限に活かした「観光拠点づくり」を推進する。

２　庄内農業高等学校地域連携事業　　［詳細：資料２］

地域の農業関連資源や高等教育機関との知（地）の拠点と連携し、地域農業の現状や課題研究を通して、将来に向けた就農意欲の向上に繋がる研修等の充実を図ることにより、教育機関としての同校の更なる発展と魅力ある学校づくりに資するとともに、地域の特性を活かした農業振興と地域づくり、地域活性化と地元定着の促進を図る取り組みを推進する。

また、県立高校再編整備計画に基づく学科再編により、平成 29 年度から新たに２学科制となり、食料生産科と食品科学科が新設されることから、今後、市食文化創造都市推進の取り組みとも連携を図りつつ、在来作物の栽培・利用方法や食文化の継承を学ぶとともに、県立加茂水産高校と連携した地域振興の取り組みにより、魅力ある学校づくりに資するとともに、食文化創造都市を担う人材の育成を図る。

３　住民自治組織総合交付金

市から自治組織へ交付している複数の補助金等をまとめて交付することで、自治組織にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として交付する。

４　防犯灯事業補助金

・自治組織等が負担する防犯灯の新設及び更新に対する補助金。
・自治組織等が負担する防犯灯の維持管理に必要な経費に対する補助金。
（総合交付金として交付）

5　鶴岡市藤島地域総合防災訓練（９月３日）

鶴岡市地域防災計画に基づき、大規模な災害発生を想定した総合的な訓練を鶴岡市消防団藤島方面隊の協力のもと渡前地区を主会場に実施する。

（市民福祉課）

6　高齢者長寿祝賀事業補助

長年の間、地域社会の向上発展に寄与された７５歳以上の高齢者を心から敬愛し、その功績を讃えて感謝の意を表する会を開催する。また、５年間（３２年度まで）の経過措置をもって、鶴岡市の補助金単価（平成２９年度一人当たり補助金額２，０００円、最終補助金額１，１００円）の統一を図るため、町内会や実行委員会と協力し敬老会事業を実施する。

7　市立保育園管理運営事業

本市の公立保育園については、指定管理による民営化を進めることを基本とし、平成３０年度より藤島くりくり保育園は指定管理者である「社会福祉法人ふじの里」による運営となる。子ども達にストレスを与えず丁寧な引継ぎを行い、スムーズに民営化に移行できるよう取り組んでいく。

8　藤島斎場管理運営

平成２８年度は２００体前後の利用実績があり、藤島地域のみならず鶴岡斎場と共に鶴岡市の斎場業務を担っている。築30年を超える施設・設備ではあるが適切な維持修繕を行いながら管理していく。

9　福祉相談のワンストップ窓口の推進

福祉の相談機能の集約による利用者の利便性の向上と、庁舎の利活用を図るため、平成２９年４月より「藤島福祉センター」が藤島庁舎へ移転し、福祉相談のワンストップサービスに向けて窓口を開設する。「包括支援センターふじしま」も加わった、より利便性の高いワンストップサービスが行われるように推進する。

10　箱わな貸出事業

近年、ハクビシン等の有害生物による被害の相談が多くあることから、藤島地区衛生組織連合会事業として平成28年度から箱わなの貸出しを行っている。事業の周知を図りながら継続して実施する。

（産業課）

11　人と環境にやさしい農業推進事業　　［詳細：資料２］

鶴岡市が独自に認証する鶴岡Ⅰ型・Ⅱ型特別栽培米を消費していただいている首都圏消費者や給食関係者等との交流を継続し、人と環境にやさしい農業、安全・安心な農作物への理解者を増やすことにより販路拡大を図る。

平成１９年度から調査交流を行っている東洋大学社会学部と連携し、人と環境にやさしい農業をサポートする学生のネットワークを構築するとともに、情報の発信を行う。

機能性と栄養価が注目されている葉茎食用サツマイモ「すいおう」の生産、利用の振興を図る。

藤島地域内の小学生を対象に、田んぼの生き物調査と栽培農家による出前授業を継続実施する。

12　まつり振興事業　　［詳細：資料２（鶴岡伝統芸能祭開催事業）］

地域の主要な観光事業である「ふじの花まつり」「夏まつり」「秋まつり」を開催する。

５月中旬開催の「ふじの花まつり」は地域外からの来客割合が多いイベントとなっており、２６回目となる今回はより地域の魅力を発信するため５月立ち上げ予定の観光ガイドを新たなメニューに加え、数年後に藤島歴史公園でのまつりを行っていく計画案を具体化していく。

８月第一日曜日開催の「ふじしま夏まつり」は、鶴岡伝統芸能祭、ふじしま焼肉フェスティバルをメインとするまつりで、特に鶴岡伝統芸能祭は市内全域から伝統芸能団体が集まる貴重な場となっている。昨年から行ってきた集客力アップのための特別観覧席設置に加え、教育委員会との連携を図り開催当日に伝統芸能団体の交流の場を新たに設ける。

１０月最終日曜日開催の「ふじしま秋まつり」は、「つや姫の里の収穫祭」をテーマとして実施されており、機能性野菜「すいおう」をはじめとして、採れたての地域の農産物を販売し、新しいメニューの試食も行う事で「食と農による地域づくり」を広くアピールしていく。

（東部建設事務室）

13　道路公共事業・道路新設改良事業

・中組下通線　　路面の損傷を解消し、交通安全のためオーバーレイする。
表層改良工　L＝330m　　A=1,848 ㎡

・上藤島中央線　　路面の損傷・消雪装置の凹凸を解消し、交通安全のため

オーバーレイする。
表層改良工　L＝140m　　A=980 ㎡

・小中島吉方線　交通安全対策および生活道路整備のため舗装新設する。
舗装工　　L＝200m　　A=900 ㎡

・大川渡金森目線　大川渡地内の側溝が老朽化のため更新整備する。
側溝(東側)整備工　L＝42m　落蓋式 30×30

・川向向楯跡線　都市計画道路藤島駅笹花線の進捗に合わせ側溝整備する。
側溝(東側)整備工　L＝35m　落蓋式 30×30

平成２８年４月から

農業委員会制度がかわりました

制度改正の３つのポイント

１　農業委員会の役割が「農地等利用の最適化の推進」として強化されました

農業委員会の業務がこれまでの「農地転用等の法令に基づく許可業務」に加え、新たに**「農地等利用の最適化」**が重点化されました。

「農地等利用の最適化」とは？

- **担い手への農地等利用の集積・集約化**
- **遊休農地の発生防止・解消**
- **新規参入の促進**

の３点を言います。

２　農業委員の選出方法が変わり、公選制（選挙）から任命制に変わりました

農業委員の選出が、これまでの公職選挙法に基づくものから**市町村長が議会の同意を得て任命する方法**に変わりました。市町村長は、任命するにあたって、あらかじめ地域の農業者等に推薦を求め、希望者を募集します。

３　新たに農地利用最適化推進委員が設置されます

農業委員会は、農地等の利用の最適化の推進を強化するため、**新たに農地利用最適化推進委員を委嘱**します。農業委員会は、地域ごとに農業者等に推薦を求め、希望者を募集します。

◎鶴岡市では、次期改選が平成２９年１１月になっており、その改選から新しい制度による選出となります。農業委員・農地利用最適化推進委員の募集にあたってはあらかじめ市ホームページ・広報等でお知らせします。

お問い合わせ

鶴岡市農業委員会事務局
鶴岡市藤島字笹花２５（藤島庁舎内）
電話　0235-64-5868（直通）　　FAX　0235-64-5846

資料 2

平成 29 年度

地域活性化事業説明資料

人と環境にやさしい農業推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

庄内農業高等学校地域連携事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

鶴岡伝統芸能祭開催事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業・・・・・・・・・・・・・１５

１．事業の名称

人と環境にやさしい農業推進事業

２．地域の課題

藤島地域は、これまで旧藤島町人と環境にやさしいまちづくり条例に基づき、市民が住んで楽しく、誇りを持てる持続可能な循環型のまちづくりを推進してきた。また、安全・安心な食糧生産基地としての役割を果たしながら、都市と共存できるまちづくりの実現に向けた取り組みを行っている。地方の農業を取り巻く環境が、米価の下落や先の見えない農業情勢に不安を抱えるなかで、本市が掲げる自然環境に配慮した持続的な農業の展開や、これまで継続してきた安全・安心で高品質な農産物の生産はより重要性を増してきている。また、消費面においても、大量生産・大量流通による農産物の価格の安定化、商品の均一化が求められる一方で、米そのものの消費率が下がっており、量より質を重視する傾向が強くなっている。本地域が牽引してきた人と環境にやさしい農業の推進を継続して発信することで鶴岡産農産物の価値を高め、地方と首都圏、高齢者と若者、生産者と消費者を結びつけるとともに、農業が持つ多面的な価値と循環型農業の重要性を理解してもらうことが課題である。

加えて、国勢調査において本地域の人口は平成17年の合併時よりも約2,000人の減となる10,216人となっており、農業分野においても、担い手への農地集積や規模拡大が停滞し、深刻な後継者不足の到来が予測される。

次代を担う子供たちや首都圏の消費者へ循環型農業の重要性を醸成し、人口減少の抑制を図るとともに魅力のある農業・農村を構築していくことが課題である。

３．事業の目的

本地域が推進するエコタウンプロジェクトと関わりの深い東洋大学社会学部や庄内農業高等学校等と連携し、地域の魅力や人と環境にやさしい農業の価値を内外にＰＲすることにより、本市有機・独自認証農産物の販路拡大とそれらに取り組む農家の活性化を図ることを目的とする。

また、本市で生産されるすいおうの機能性をPRするとともに、昨年度開催された「食の創造シンポジウム」によって得られた住民の意識の高まりを消失させることなく、生産の増加、加工開発に続き、地域での消費量の増加と販売面の強化に繋げることを目的とする。

４．事業の内容

（1）人と環境にやさしい農業・農産物の価値の理解促進

① 人と環境にやさしい農産物のＰＲ【継続・拡充】

本市が認定認証している独自特別栽培米は、首都圏保育園の給食やイベントにおいて提供されてきた。また、鶴岡市内での田植え、稲

刈り体験や、首都圏小学校での出前授業を行い、安全で安心なお米生産について理解促進を図っている。藤島地域で生産される独自認証米の使用拡大を依頼するとともに、関係する都内米穀店も含め周辺への販路拡大協力を依頼する。また、新たに大消費地における安全・安心なお米の試食モニターを募集し、飲食店等へのPR強化を図る。

② 田んぼの生き物調査の実施【継続・拡充】

これまで藤島地域の小学５年生児童を対象にした同調査について、近年は非農家の家庭も多くなったため、保護者も含めた活動とする。田んぼに生息する生き物を調査し、地域の豊かな自然環境を再認識するとともに、持続性のある農業と安全・安心な農産物を生産することの必要性に対する理解を深める。

（２）都市消費者等との交流促進

① 首都圏大学との連携による「人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク連携事業」【新規】

本市との取り組みが10年になる東洋大学社会学部、また昨年度本市に移住した学生を起点とし、都内大学生らによる「人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク」を構築し情報を外部から発信していくことで活性化を図る。※（１）－①を含む。

（３）農産加工品の商品開発化

① 鶴岡産機能性野菜地域利活用推進事業【新規】

加工品開発や地産地消を推進の中で、平成16年より機能性野菜「すいおう」に注目し、生産拡大や、地産地消と農産加工品の開発商品化を図るほか、平成28年度には「つるおか食の創造シンポジウム　～地域における機能性野菜の発展を考える～」を開催し、県内外の消費者の関心も高まっている。

同シンポジウムを開催した実行委員会は、地域の農業、商業、食生活改善などの女性活動の分野において中心的な役割を持つ機関で組織されているため、今後は同実行委員会が中心となり、市健康関連機関及び部課に働きかけながら、市内の飲食業店や加工業者において機能性野菜の利活用や情報発信を行っていく。

またこれにより生産拡大、生産者の所得向上、加工開発、提供先の拡充、地域住民の健康増進を図り活性化に繋げていく。

５．事業の効果

本市が推進する人と環境にやさしい農業の価値が内外において理解され、消費者から信頼される“安全・安心な食糧生産基地”と認められることにより農産物の販路が拡大する。

また、地域の農家が楽しく誇りを持って安全で良質な農産物の生産活動に励むことができるようになり、地域住民も鶴岡市の農業に誇りを持つことができる。

エコタウンプロジェクトその１　人と環境にやさしい農業の理解促進【継続・拡充】

目的	・本市がＪＡＳ有機認定している有機栽培米、独自認証している特別栽培米（鶴岡Ⅰ型、鶴岡Ⅱ型）の使用拡大と販売促進。 ・本市の安全・安心な農作物や人と環境にやさしい農業の理解促進 ・田んぼの生き物調査による、地域の豊かな環境の再認識と、環境にやさしく持続可能で安全・安心な農産物生産の理解醸成

事業内容・実施状況	横浜市みどり保育園グループでの給食利用 特栽米田植え稲刈り体験 本市で認証される特栽米を平成18年度より給食で提供している。	首都圏イベントでの安全・安心な農産物の販売 平成11年より繋がりのある練馬区光が丘のイベント参加	安全・安心な農産物の生産農家による首都圏出前授業 平成26年度より首都圏小学校で出前授業を行っている。	都内米穀店へ販路拡大依頼 平成28年度より、練馬区と協力し、独自認証米を販売店等にＰＲしている。	田んぼの生き物調査による地域環境の再発見 H18年から田んぼの生き物調査を継続している。
H29	継続して給食使用を依頼するとともに、年２回の来鶴時に栽培農家と交流を深める。	練馬区光が丘との繋がりは強固な物となっており、継続してＰＲを行っていく。	練馬区４つの小学校、足立区の小学校で出前授業を行うとともに学校関係者へＰＲする	首都圏の販売店が行う、ﾏｯﾁﾝｸﾞﾌｪｱや商談会へ参加し市独自認証米の販売促進を図る。	非農家化世帯も多くなっているため、保護者も含めた田んぼの生き物調査を行う。
H30	新規で学校・保育園等に拡充	販売量を拡充	出前授業実施学校数の拡大	流通量の拡大	継続実施
H31	新規で学校・保育園等に拡充	販売量の拡充	出前授業実施学校数の拡大	流通量の拡大	継続実施

事業効果	横浜市の約30の保育園で年間45,000 kgの鶴岡Ⅰ型独自認証米が使用されている。また、年間約80名の園児が実際に鶴岡で鶴岡Ⅰ型産米の田植えと稲刈りを実施している。	19年間継続して販売していることから、人的交流が活発化している。右の出前授業は物産販売がきっかけで区内関係者からの要請を受け実施するようになった。	練馬区の４つの小学５年生、約350名への出前授業を行っており、農薬や化学肥料を使用しない農業の重要性を醸成している。同時に鶴岡産米全体のPR効果が図られている。	単体の米穀店や多くの販売業者が集まる商談会に参加することで、「安全・安心な鶴岡産米」の認知度が上がっている。平成28年度は２業者との新規取引があった。	藤島地域内の４小学校、103名の児童に「人と環境にやさしい農業」の重要性について理解促進を図った。 保護者にも学ぶ機会を作ることで取り組みを拡大する。

エコタウンプロジェクトその４　都市消費者との交流促進

人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク連携事業【新規】

目的

・平成 19 年度から継続して繋がりのある東洋大学社会学部と連携した「人と環境にやさしい農業」の認知度向上
・本市に移住した卒業生を核とした学生ネットワークを構築し「人と環境にやさしい農業サポーター」の育成。
・同サポーターを活用したインターネット上での情報発信

これまでの活動状況

東洋大学社会学部「庄内藤島調査」調査協力

平成 28 年 2 月に行われた調査報告会（住民 50 名参加）
8 月本調査（学生 30 名来鶴）

地域イベント及び首都圏イベントにおける連携協力

平成 28 年 8 月ふじしま夏まつり 30 名、平成 28 年 10 月ふじしま秋まつり 4 名、平成 28 年 10 月練馬区光が丘地区祭り 8 名、江戸川区民まつり 5 名

卒業生の鶴岡移住

東洋大学社会学部「庄内藤島調査」SNS・ブログでの情報発信

Facebook やブログで藤島調査を紹介

・平成 19 年から平成 28 年現在までの 10 年間に、東洋大学社会学部の学生「社会調査及び実習」の履修生 346 名が藤島地域において調査実習を実施。
・累計 1,000 名以上が来鶴しボランティア協力を行っており、鶴岡の強力な応援団となっていただいている。
・平成 27 年 12 月に卒業生の 1 名が鶴岡に移住しており、地域での活動を始めている。

東洋大学社会学部　学生の来鶴者数	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年度	平成 28 年
	102	129	121	122	127

H29 以降

・移住した学生を中心に「人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク」を構築する。（他大学への拡散）
・1 泊 2 日～5 泊 6 日の日程で藤島地域に短期滞在。
・学生のネットワークを広げるとともに、SNS やブログを使い、藤島の魅力を発信する。

「人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク連携事業」で体験する藤島地域の魅力の掘り起しメニュー【体験し発信する】

『人と環境にやさしい農業体験』【農作業】

３泊４日～７泊８日

有機農業や特別栽培農家にホームステイし有機農業を体験する。

『地域の伝統文化体験』【伝統芸能】

３泊４日～５泊６日

藤島地域に伝わる「獅子踊り」や「神楽」を体験する。

『地域の魅力掘り起し』【イベント】

１泊２日～２泊３日

藤の花まつり、ふじしま夏まつり、ふじしま秋まつり、市内イベントに参加する。

『地域の名所・旧跡めぐり』【名所・旧跡】

２泊３日～３泊４日

藤島城址、歴史公園、因幡堰、添川根っこ杉、など歴史に関わりの深い場所を探求する

『地域の仕事体験』【企業・店舗】

２泊３日～５泊６日

農家レストランや産直施設、農業法人など企業で実際に働いてみる

『食文化の探求』【女性団体・一般家庭】

２泊３日～３泊４日

地域に伝わる郷土料理や一般家庭で長く引き継がれてきた家庭料理を体験する。

事業の効果

- 学生ネットワークによるSNS・ブログの閲覧数の向上　40日×5ページ×100人（個人がネットワークで繋がる学生数）20,000件
- 人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク加入者数　これまで藤島に訪れた事のある大学生　400名×1.2　500名
- 首都圏の若者の移住者数　人と環境にやさしい農業サポーター学生ネットワーク加入者で移住を希望する学生が増加

エコタウンプロジェクトその６　農産加工品の商品開発化

鶴岡産機能性野菜地域利活用推進事業【新規】

補助事業　市補助率 2/3

目的

・鶴岡産機能性野菜の「情報発信」・「生産拡大」・「消費拡大」・「加工開発」・「提供先の拡充」・「特産化」
・生産者の所得向上　　・地域住民の健康増進

すいおうについて

・平成１６年に九州沖縄農業研究センターで山川理農学博士らが開発。
・平成１７年に「人と環境にやさしい農業推進事業」で導入。
・血糖値上昇抑制、血圧上昇抑制、肝脂肪蓄積抑制、美白効果、骨粗鬆症改善、抗酸化作用など多くの機能性が証明されている。
・平成 28 年度は、生産者 71 名、3 団体が 1,400 本の苗を栽培。

山形県における疾病者数・死亡者数

脳梗塞死亡者数	1,172 人	第１位
心筋梗塞・狭心症患者数	950 人	第５位
胃がん死亡率	13％	第５位
上の疾病と関係が深い糖尿病患者数	29,000 人	第５位

(キューサイ分析研究所　2012～2014 調べ)

これまでの活動状況

地産地消料理教室での活用

H28 年 6 月参加者 12 名

食の創造シンポジウムの開催

平成 28 年 9 月開催　参加者 150 名

給食での提供・食育

藤島小学校バ 5.6 年生ﾊﾞｲｷﾝｸﾞ給食

イベントでの活用

東洋大生が 150 食のすいおう料理を提供

イベントでの活用「つるおか食の祭典」庄内農業高校・農林大学校・東洋大学

食の都庄内親善大使のふるまい

じもと名店の味

事業の効果 平成 29～31 年（3 年事業）	・新たな推進体制の構築 ・地元飲食店における提供メニューの拡大　・加工開発　・生産拡大　・生産者の所得向上 ・福祉施設など様々な場所で機能性野菜を摂取できる環境を整える

・平成 28 年度に開催された「つるおか食の創造シンポジウム　～地域における機能性野菜の発展を考える～」において、県内外の消費者の関心も高まっていることから、同シンポジウム実行委員会が中心的となり活動を行う。

これまでの推進体制

庄内農業高校
東洋大学

↑

エコタウン室
機能性の PR

苗の斡旋 ↓

すいおう生産者

原料の買取 ↓

ふじしま産直組合
加工品の販売

加工の依頼・生産 ↑ ↓

加工（個人）

今後の推進体制

すいおう生産者

苗の斡旋 ↑ ↓ 原料の買取

鶴岡産すいおう地域利活用推進委員会

（前・食の創造シンポジウム実行委員会）

JA 庄内たがわ	→	**加工開発**
庄内総合支庁農業技術普及課	→	**生産指導**
食生活改善推進委員会・婦人会・JA 女性部	→	**啓発・効果ＰＲ**
出羽商工会	→	**地域内利用拡大**
ふれあい食センターサンサン	→	**食育**
ふじしま産直組合・ぽっぽの湯産直組合	→	**販売促進**
庄内農業高等学校・東洋大すいおう調査チーム	→	**企画・発想**
藤島庁舎エコタウン室	→	**機能性ＰＲ**

販売・提供・提案・連携

A コープ・産直	地域内飲食店	給食

↓

消費者・福祉施設等

１．事業の名称

庄内農業高等学校地域連携事業

２．地域の課題

庄内農業高等学校は、明治３４年に山形県荘内農学校として開校以来、今年で１１６年を迎える県内でも屈指の歴史と伝統を誇る庄内唯一の農業高校であり、これまで、地域農業やそれに関連する地元産業の担い手はもちろん、各界に優れた人材を輩出しています。昨今の少子化に伴う生徒数の減少から、県の高校再編整備計画による学科再編により、平成２９年度から、現在の農業科の３学科制（生物生産科、園芸科学科、生物環境科）が、２学科制（食料生産科・食品科学科）に再編になります。

このため、地域、行政、関係団体等が連携して、今後もなお一層、活力と魅力ある高校として存続するよう、同校の発展に繋がる支援・取り組み強化が求められています。

３．事業の目的

平成２５年度に庄内農業高等学校、出羽商工会、庄内たがわ農業協同組合、県庄内水田農業試験場、県庄内総合支庁農業技術普及課、藤島地域町内会長連絡協議会、農業生産者組織など、地域の関係団体等が連携し「庄内農業高等学校地域連携協議会」が設立されました。同協議会では、同校生徒が農業と食への理解・関心を高めるため、地域と連携した農作物の栽培や農産加工品の商品化研究支援をはじめ、地域の特性を活かした農業振興を推進することにより、同校のさらなる発展と、地域を担う人材育成と地域活性化に資することを目的とします。

４．事業の内容

地域の農業関連資源及び高等教育機関との知（地）の連携を活用し、地域特性を活かした農業振興や地域に貢献する人材の育成を図る取り組みについて、庄内農業高等学校地域連携協議会がおこなう事業に対して補助金を交付する。

（１）食品等加工品の商品化研究支援事業【新規】

地元食材を扱う店舗等（レストラン・産直）の指導・協力を得て、庄農産農産物（果樹・野菜）や在来作物等を活用した食品等の商品化研究（試作含む）を行い、食と農を学ぶ学習等を通じ、本市食文化の理解、関心を高める取り組みを支援する。

（２）伝統野菜等の栽培・研究事業【継続】

在来作物、伝統野菜等（ふじしま大根、すいおう）の栽培・研究

（3）農高出前講座・地域農業研究ワークショップ【継続】

東北公益文科大学から講師を招き、地域課題解決等を目的にフィールドワークを中心としたワークショップの実施と、ＪＡや山形大学農学部から講師を招聘し、農業の６次産業化や課題学習の研究を支援する。

（4）花による地域協働美化事業【継続】

藤島駅にフラワーポットの設置を地域協働で行い、地域と連携した協働美化活動に取り組む。

（5）農業コンテスト出品・ＰＲ支援事業【継続】

「全国農業高校お米甲子園」へ庄農米を出品し、米・食味分析鑑定コンクール国際大会を見学するとともに、プレゼンテーション部門にエントリーし全国大会への出場とＰＲ活動を行う。

（6）地域公開講演会開催事業【継続】

外部講師を招へいし、生徒と地域住民が一緒に地域と農業を新しい視点から見直すきっかけとなる講演会を開催し、地域づくりに向けて意識の喚起を図る。

（7）地域交流農園事業【継続】

グリーンライフ授業（市民農園運営学習）による作物栽培実習を通じて、地域住民等とともに、農業と福祉の連携を中心とした、地域交流活動に取り組む。

（8）県立加茂水産高校とのコラボ事業【継続】

加茂水産高と庄農高の生徒会が連携してワークショップを開催し、お互いの強みを活かした特産品・グッズ等の企画開発・商品化・販売を行い、地域の魅力促進を図る。

５．事業の効果

地域の農業関連資源及び高等教育機関との知（地）の連携を活用した、地域農業研究ワークショップでの地域課題解決学習や、外部講師を招聘して農業の６次産業化の課題実習をはじめ、学科再編に伴い、今後、同校食品科学科で行う在来作物を活かした食文化の取り組みなど、地域特性を活かした農業振興や地域に貢献する人材育成を行うことにより、同校が活力ある教育機関として、さらなる魅力を高めるとともに、優れた人材を輩出する農業高校として発展、充実を図ることができる。

平成28年度 庄内農業高等学校地域連携事業の主な取組みについて

付属資料

(1)米粉等・シルク加工品の商品化支援事業

米粉シフォンケーキやシルクを使った菓子製造の開発・商品化を目的に、イベントでの振る舞いや地元レストランを訪問し、デザート用の食べるシルクの活用や商品化提案を行った。

「食べるシルク」普及へ
デザートなど活用方法提案

庄内農業高

三川町のレストロ・デ・ポンポイ日、庄内農業高校の生徒たちが「食べるシルク」の普及活動の一環としてエビ作りのデザートとドレッシングを食べるもの。同校の授業科目「農業研究」で。

「食べるシルク」で食べるシルクの普及、用方法を食べ方に提案し、普及拡大と課題解決能力を養おうというもの。

この日は同校生物環境科3年生の「チーム知るシルク」の大川紗生さん(18)、小林海貴さん(18)がレストロ・デ・ポンポ各階間、「食べるシルク」は無味無臭で、サラサラとした食感が特徴。高蛋白の脂平中の予防に効果があること紹介し、オナーの佐藤佳美さんに食べるシルクの活用方法として「水信玄もち」と「ドレッシング」を提案した。

試食した佐藤さんは「シルクの個性をもっと出しみては、サラサラとした食感と健康作用に着目して、シルクを食べていると感じられるような活動を生かした商品にしたらいい」とアドバイスした。

大川さんは「これから食感を生かした料理を考えたい」、小林さんは「チームのみんなで課題を解決したい」と話していた。

庄農生たちが食べるシルクの活用方法を提案した

(2)麺類等の製造・販売支援事業

加茂水産高校と庄農高がコラボし、魚醤だし等の研究発表と麺類の合同試食会を開催し、庄農うどんと加茂水産の魚醤油やサンマ節等とのコラボに向け、取り組みを行った。

(3)伝統野菜等の栽培研究事業

ふじしま大根と外内島きゅうりは、地元栽培農家の指導を受け、栽培実習に取り組み、大根餅やピクルスの加工品開発も行った。すいおうは、パウダー加工用として栽培に取り組んだ。

伝統の大根栽培 根付け

鶴岡市藤島の県立庄内農業高校で8日、地元の在来野菜「ふじしま大根」の収穫が始まった。苦労して育てた大根を手に、一後輩たちにも引き継いでもらい、後世に伝えたい」と喜び合った。

生物生産科、生物環境科、園芸科学科の生徒7人が「生物活用授業」の中で7月から取り組んできた。伝統野菜の栽培研究を通じて、地域住民と一体になった学校づくりを進めていくことも目的の一つだ。

栽培したのはしまい根は、1960年代に栽培が途絶えてしまった藤島城・鶴岡城の城下町の栄大根の流れをくむ、同地域の河川敷に面生していた「野良大根」を地元の人が見つけ、住民と市が協力して2003年から9年ぶりで入手選別し、豊栄大根のもっちりとして種わかな等がある味を再生させたという。

庄内農高生 育て収穫、後輩に継承

「ふじしま大根」を手に笑顔の生徒＝鶴岡市の県立庄内農業高校

鶴岡市三和で月山パイロットファームを営む相馬一広さん(68)がたった一人、栽培を続けており、生徒たちは相馬さんから種をわけてもらい、指導を受けながら育成してきた。

8日、学校の畑から成種できた大根は約40本。小さりだが、太くて丸み帯びた葉々となる姿なの等がある味を再生させたという。

智成さんは「うまくいくかな配う。だったけど、うれしい。途絶えさせてはだめと思って育ててきた先祖に申し訳ない」・指導した相馬さんは「私のより良い出来だ。力強い成長期で す」と満足そうだった。

収穫した大根の中から選別した大根を さらに畑で育てて来年6月に種を取り、後輩たちが栽培を継承していく予定だという。（岡口大輔）

外内島きゅうり 受け継ごう

在来野菜

保存会が現地研修会開催
庄農生も栽培方法学ぶ

鶴岡市外内島地区に伝わる在来野菜、外内島きゅうりの栽培研修会が11日、鶴岡市藤島の同地区で、庄内農業高校の生徒たちが栽培方法を学んだ。

研修会は、同地区の保存会（佐藤三一会長）が主催し、生徒ら約20人が参加した。

講師の外内島きゅうり栽培農家の佐藤一郎さんが、苗の植え方や、支柱の立て方、摘芯の方法などを説明した。

参加した生徒たちは、実際に畑に苗を植え、支柱を立てるなどの作業を行った。

外内島きゅうりは、鶴岡市内の一部の地域で栽培されている在来種。昭和初期に栽培されていたが、戦後、栽培する農家が減り、一時、絶滅の危機に陥った。

保存会の佐藤三一会長は「外内島きゅうりは、地域の大切な財産。栽培方法を学び、この地域の農業の活性化を図りたい」と話した。

この日は同校生徒3人が、保存会メンバー5人から、栽培方法や収穫、調理などの説明を受けた。

栽培研修会に参加した庄農生は「生物環境科の授業で、さまざまな作物の栽培方法を学んでいる。外内島きゅうりの栽培方法を学び、地域の農業の活性化に役立てたい」と話していた。

(4)農高出前講座・地域農業研究ワークショップ

農林漁業成長産業化支援機構東北地区プランナーを招聘し、農業の６次産業化出前講座、東北公益大や山大農学部より講師を招聘し、地域農業研究ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟや出前講座を開催した。

ブランド戦略など学ぶ
6次産業化へ 庄農高で出前講座

鶴岡市の庄内農業高校（御船川淳校長）で8日、「農高出前講座」が行われた。全国の先進事例を通し、6次産業化の事業を成功させるためのブランド戦略や、マーケティングの基本的な考え方について生徒たちが学んだ。

6次産業化を成功させるためのブランド戦略や、マーケティングについて生徒たちが学んだ

出前講座は、同市藤島地域などの行政や団体で組織する庄内農業高等学校地域連携協議会（田中勝一会長）が主催し、本年度の新規事業として企画。今月2日と9日の2回にわたって行われた。

講座2回目の9日は、同校の授業で農業経営や食品製造、地域経営論などを選択した3年生、作物を選択した2年生合わせて35人が聴講。講師はすずき労務経営コンサルタンツ（仙台市）代表で中小企業診断士、社会保険労務士、宮城県6次産業化プランナーなど多くの肩書を持つ鈴木大輔さんが務めた。

鈴木さんは6次産業化を成功させるための経営戦略とマーケティングについて学んだ。

(5)花による地域協働美化事業

庄農生が育てた花苗プランターを、藤島駅前ロータリーと藤島歴史公園に設置した。

藤島駅前ロータリーの歩道に、ベコニアの花苗プランター20基を秋期のみ設置した。

藤島歴史公園の園路に、春季はベコニア等の花苗プランター20基、秋期はパンジーの花苗プランター20基を設置した。

(6)地域公開講演会開催事業

世界の食糧危機を救った小麦農林10号を題材にした映画「NORIN TEN」の上映会と、映画監督をお招きし、生徒と地域住民等が農業の再発見に繋げる講演会を開催した。

作品に込めた思い語る

農業高「NORIN TEN」の稲塚監督講演

鶴岡市の庄内農業高校（御船義校長、生徒一198人）で18日、小麦の育種者・稲塚権次郎（1899～1998年）の半生を描いた映画「NORIN TEN」の稲塚秀孝監督による講演会が開かれた。

「NORIN TEN」は、富山県砺波市出身の農学者・稲塚権次郎を主人公に、第二次世界大戦後の世界的な食糧難を救う原動力となった40～60年代の穀物大増産（緑の革命）を支えた小麦農林10号の育成までを描いた作品。

稲塚監督は「研究者として大きな功績を残したとはいえ、農家の長男坊として家を継げなかったことを両親に対して済まなく思っていたのではないか」と、最後の挨拶で故人を偲んだ。

講演する稲塚監督

(7)地域交流農園事業

グリーンライフ授業（市民農園運営学習）による地域交流農園を整備し、社会福祉協議会藤島地区福祉委員会と連携（農福連携ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）し、野菜栽培（夏・秋）に取り組んだ。

みんなで楽しく野菜収穫

＝庄内農業高内の地域交流農園＝

鶴岡市の庄内農業高校敷地内に整備された地域交流農園で9日、同校生徒や藤島地域福祉委員会のメンバーによる野菜の収穫作業が行われた。同農園は今年5月、同校地域連携協議会（田中壽一会長）が市民農園運営学習「グリーンライフ授業」のため整備したもの。地域住民と農業を通じた交流活動に取り組むため、地域交流農園で住民たちが野菜を収穫した

農業福祉連携プロジェクトの一環として、同協議会と市社会福祉協議会藤島福祉センターが企画。今年5月末、同福祉委員会の協力を得て同校生徒が化学肥料を使わないオーガニック農業の栽培実習でナスやピーマン、トマトなどの苗を定植、水やりや草取りなど管理を行ってきた。

収穫作業には同校生徒や同福祉委員会、同福祉センターのメンバー、藤島地域の小学生ら計約20人が参加。30分ほど農園内の草取りを行った後、赤く熟したトマトや色鮮やかなピーマン、ナスなどを収穫。子どもたちは「おいしそう」「たくさんなっている」と声を上げ、用意したケースの端がいっぱいになるまで収穫した。

同福祉センターの多田隆佳センター長は「地域の方々と触れ合いながら土をいじって交流できたことは達成感もあり、今後につなげていきたい」と話していた。

秋には大根の栽培と収穫を予定しており、今後は学校と連携を図りながら福祉的な利用の検討も行っていくという。

(8)県立加茂水産高校とのコラボ事業

実業高校の両校が連携して食品加工品等の商品化を目的に、生徒会を中心にワークショップを開催し、つるおか大産業まつりで試作菓子のアンケート調査に取り組んだ。

庄内農業高 加茂水産高 コラボ商品開発事業始まる

鶴岡市の庄内農業高校（御船義校長）と加茂水産高校（佐藤校長）によるコラボ商品開発事業が30日、始まった。初日は両校の生徒会役員が加茂水産高に集まり、開発する商品について意見を交換した。

専門性生かし観光誘客狙い

新商品の開発は庄内農業10人、加茂水産高から9人が担当。生徒たちは4～6人ずつの4グループに分かれ、それぞれの技術を生かして、県内主要観光地などの来客を目標に、両校がそれぞれの強みを生かし連携した特産品アップなどの開発、商品化を通じ地域への観光誘客に貢献することを目的とした。

この日は庄内農業高から庄内農業高と加茂水産高の生徒がコラボ商品開発に向けて意見交換した

スタイリッシュな名前にしたから「貝を使ったテクセリ」「花形麩を使えばよかった」と次々とアイデアを出した。最後にグループごとのアイデアをまとめ、「小魚入りの野菜チップス」「貝殻の思い麩菓子を作って売る」「米粉のとんぐりアイス」「海藻を使ったジャーペット」などと発表された意見を参考にした。

本年度の商品化に向け、インが行われる予定。

１．事業の名称

鶴岡伝統芸能祭開催事業

２．地域の課題

藤島地域では、添川両所神社をはじめ６つの獅子舞（踊り）と古郡、長沼及び六所神社の３つの神楽が伝承されている。少子高齢化の状況は、藤島地域においても他地域同様に進んでおり指導者の高齢化や継承者の不足、勤務形態の多様化によりいずれの保存会も苦慮している状況にある。

こうした中にあって、この伝統芸能の伝承は大きな意義を持っている。実際に若者が地域に誇りや愛着を感じるうえで、獅子踊りや神楽を舞い、地域の祭典や行事に参加することは通常のコミュニティ活動では味わえない、人と人をつなぐ効果的なものであり、達成感や地域での存在感を得ることができる数少ない場となっている。したがって、後継者育成にとどまらない地域コミュニティを維持継続していくうえで重要な施策といえる。

３．事業の目的

国指定重要無形民俗文化財「黒川能」には及ばないものの、鶴岡市内各地に「獅子踊り」や「神楽」等、地域で頑張っている郷土芸能が多数存在している。「鶴岡伝統芸能祭」は、こうした団体に光を当て、神社境内ではない会場で一同に会し多くの観客に見ていただくことにより、地域外からの誘客による地域活性化、村祭りでは味わえない出演者のやりがいや誇りにつながる「場」の提供、そして同じ悩みを抱える保存会同士の交流機会を作ることにつながり、大変意義あるイベントとなっている。

４．事業の内容

ふじしま夏まつりで開催されてきた伝統芸能祭を、鶴岡市内各地の伝統芸能を招致して鶴岡市を代表するまつり「鶴岡伝統芸能祭」として開催するとともに、地域外からの集客のためにPRを行う。

第１部では、藤島地域内で活躍する団体や小中学生・園児より６団体ほど出演いただき、活動の場を提供するとともに広く集客を図ることとし、第２部では、藤島地域と他地域それぞれから獅子踊り・神楽に、合わせて１２前後の団体から出演いただき、伝統芸能を広く紹介し、地域の活性化と伝統芸能の育成を図ることを目的としている。

５．事業の効果

鶴岡市には、櫛引地域の「蝋燭能」「たきぎ能」や温海地域の「せせらぎ能」のように「能」による競演はあるものの、能以外の伝統芸能が一堂に会する場は少ないため次のような効果をもたらす。

① 鶴岡伝統芸能祭の開催は、藤島地域内外からの集客につながり、地域内のにぎわいをつくり、見ごたえのある伝統芸能祭の鑑賞ができることにより、地域の顔となる祭りとして地域活性化につながるものである。

② 継続して開催することにより内外から認知される祭りとなり、出演者の自負の高まりとともに、地域外の伝統芸能との競演及び交流により相互に継承意識の高揚と市内伝統芸能団体の活性化にもつながる。

③ 若い出演者にとって、伝統芸能の継承に貢献することで地域への誇りと愛着が生まれ、さらには世代間交流により、将来的に地域コミュニティの担い手としての活躍が期待される。

鶴岡伝統芸能祭開催事業

平成２５年度より地域活性化事業予算からの補助をいただき、これまでの「庄内伝統芸能祭」から「鶴岡伝統芸能祭」と名称を変更して開催、平成２８年度で４回目の開催となる。(伝統芸能祭は通算１５回目)

第１０回目となる平成２３年度は(財)地域活性化センターより『合併市町村住民組織活性化支援事業助成』をいただき同規模の伝統芸能祭を行った。

これまでの参加団体について

団体名称	地域	H23	H24 (単独開催)	H25	H26	H27	H28
湯田川温泉神楽	鶴岡	○			○		○
大山いざや巻き	鶴岡					○	
高寺八講	羽黒	○		○	○		○
荒川八幡神社神楽	羽黒					○	
天狗舞獅子舞（上山添）	櫛引			○			
天狗舞獅子舞（松根）	櫛引				○		
丸岡桐箱踊り	櫛引	○					
田麦俣三山神楽	朝日	○			○		○
祥雲御山太鼓	朝日			○		○	
念珠関弁天太鼓創成会	温海		○		○		○
五十川神楽	温海	○		○		○	
あまるめ飛龍太鼓	余目			○			

※藤島地域は以前と同様に子どもの団体が６団体前後、大人の団体が６団体前後出演しており、毎年の出演団体は合計１２団体前後となっている。

高寺八講（羽黒地域）

田麦俣三山神楽（朝日地域）

1．事業の名称

藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業

2．地域の課題

平成２７年７月に開園した「藤島歴史公園」を藤島地域のシンボルとして、テーマ性のある重要な観光資源と位置づけ、観光拠点として活用を図ることが今後、重要である。特に、ふじが開花する３～４年後（３０～３１年）に照準をあわせ、見ごたえのあるふじを育成し、ふじの花見時（５月中旬）のライトアップや、オフシーズン時（秋から冬場）のイルミネーション設置により、季節に応じたふじをメインとした公園としての魅力アップを図り、地域・観光団体・行政・ボランティア等が連携して、まつりやイベントを開催するなど、地域の特性を最大限に活かした「観光拠点づくり」が重要である。メインとなるふじ棚の育成・管理については、ボランティア団体から担っていただくこととしているが、観光資源として公園を活用する上で見ごたえのあるふじ棚の育成は最も重要であることから、専門家による継続的な技術指導やボランティアの育成強化は欠かすことが出来ないものである。

また、併設する東田川文化記念館と連携した公園を活用した文化記念館イベント等の開催や庄内農業高校との連携も含め地域協働の公園美化活動に取り組むなどの地域一体となった公園づくりが求められている。市民パートナーズの理念のもと、地域協働のまちづくりをより一層推進するため、公園サポーター・観光ボランティア等の育成・拡充や公園を利活用する団体との連携が今後の課題である。

3．事業の目的

ふじにこだわった「藤島歴史公園」の開園を契機に、ふじの魅力を体感できるような各種取り組みの展開や魅力創出により、交流人口の拡大を図るとともに、同公園や公共施設のふじ棚の維持管理を地域協働の取り組みとして推進し、地域内外にふじ公園の魅力を発信することにより、魅力ある活気あふれる、ふじの里づくりに向けた施策の展開を図る。

4．事業の内容

（1）ふじ棚管理技術指導業務委託

藤島歴史公園を今後、テーマ性のある観光資源として活用を図るためには、ふじの専門家（アドバイザー）による技術指導が不可欠であることから、専門家による、ふじ棚の完成状態を想定した、つるの伸ばし方や剪定方法、施肥や病害虫予防対策など、公園内に設置されたふじのカーテンを想定した高さ3mの大ふじ棚や、長さ33mと54mの２箇所のトンネル型、また、柵上にふじをはわせ、前面の池に

ふじを映しだすスクリーン型など計５基のふじ棚について、年間を通じ、ボランティアが適正なふじ棚育成管理をおこなうための技術指導・助言等の指導業務を委託する。

（２）藤島地域ふじ棚育成・管理ボランティア団体育成補助

公園内、街路、公共施設に設置されたふじ棚の育成・管理をおこなうボランティア団体の活動を支援するため、ふじの里づくりの推進に資するボランティア団体の活動に対して、補助金を交付する。また、技術指導のアドバイスにより見応えのあるふじの育成に必要とされた資材、肥料などの提供。

（３）藤島歴史公園美化事業

ふじは、定植後３～４年は成長するつるを棚に伸ばし仕立てる時期であり花が咲かないため、地域一体の公園づくりと魅力アップを図るため、地域住民等のボランティアによる公園美化活動を行う。県立庄内農業高等高校の生徒が実習で育てた花苗など、同校生徒と地域住民との協働の取組みとして、花壇への定植活動と花苗プランター設置を行う。

（４）藤島歴史公園ライトアップとイルミネーションの設置

公園をテーマ性のある観光資源として活用するため、ふじの開花のオフシーズン（１１月から２月）に、イルミネーション等を設置し、地域内外に公園の魅力を発信する。(整備期間：H28~30 年度)

（５）公園サポーターの募集事業

観光拠点としての魅力向上を図る一方で、地域の方をはじめより多くの方々より愛着を持って公園に関わってもらうことを目的に、今後、公園内の美化活動、利活用や魅力アップ活動などの公園サポーターを募集する。また、そのきっかけとなる誰でも参加しやすい公園サポータービギナーズ事業によりサポーター参加を促進する。

５．事業の効果

藤島地域の新たなシンボルとなる藤島歴史公園において、庄内農業高等学校と連携した公園花壇等の地域協働美化活動や、ボランティア団体によるふじ棚の地域協働管理の推進、東田川文化記念館と連携した文化・歴史の情報発信やイベント等の開催を通して、地域一体となった公園づくりを行うことができる。また、ふじの花見時と花見時以外でも、ライトアップ等によるテーマ性のある公園として整備し、地域内外にその魅力を発信することにより、誘客と賑わい創出による地域の観光拠点として活用を図ることができる。

H29 藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業

目的：◆ボランティア団体等との市民協働のもと、園内のシンボルツリーである「大藤棚・ふじトンネル」を見応えのある藤島地域を代表する藤棚に育成する。
◆園内の美化活動等を通じ公園への愛着を醸成するともに、藤以外の魅力を創出し、地域の活性化につなげる。
◆公園を活用し活動を支える人（公園サポーター）づくりを推進し、交流人口の増加を図る。

内容：

1．藤棚の魅力アップのための取り組み

〇専門家による藤の成長状況に応じた適切な技術指導　①藤棚管理技術指導業務委託

〇管理ボランティア団体と園内ふじ育成管理活動協定を締結し、活動を支援する

②藤棚育成・管理ボランティア団体育成補助

2．藤棚以外の魅力創出

〇花による美化活動　③藤島歴史公園美化事業

・庄農で栽培した花苗を使用した地元町内会、庄農との協働による花壇美化活動

・地元町内子ども会プランター花美化活動　・庄農によるプランター花美化活動

・昇り藤（ルピナス）等プランター美化活動

〇ゴミ拾い、除草などの園内美化

・公園サポーター（職員ボランティア・地域の企業等）による美化活動（年 1～2 回）

・ちょこっとサポーター活動の推進による園内美化

〇イルミネーション設置による冬季間の魅力アップ　④歴史公園イルミネーション設置事業

〇東田川文化記念館イベントの開催、連携

3．公園サポーターの創出　⑤公園サポーターの募集事業

〇上記 1. 2 の園内美化活動、利活用や魅力アップ活動参加者などの公園サポーターの募集。

構成員 (案) ：地元町内会・子ども会、地元住民、庄農、地元企業、園内で遊ぶ子供など

〇公園サポータービギナーズ募集

初めての人も参加しやすい事業により公園への関心・協働へ促し新たなサポーター創出を図る。

（公園サポータービギナーズ事業（案））昇り藤 (ルピナス) 里親事業、光の演出づくり事業

→将来的には新たな魅力となるサポーターが主体に行う活動につなげる

4．観光ボランティアによる藤島観光ガイド事業との連携　（地域活性化事業外）

事業効果：

1．藤島歴史公園のシンボルツリーであるふじ棚が、専門家のアドバイスの元、市民協働により観光資源としても魅力的があるものに育成される。併せて、ボランティア団体の管理技術が向上し、地域内の他のふじ棚管理についても活かされ、地域全体の魅力が向上する。

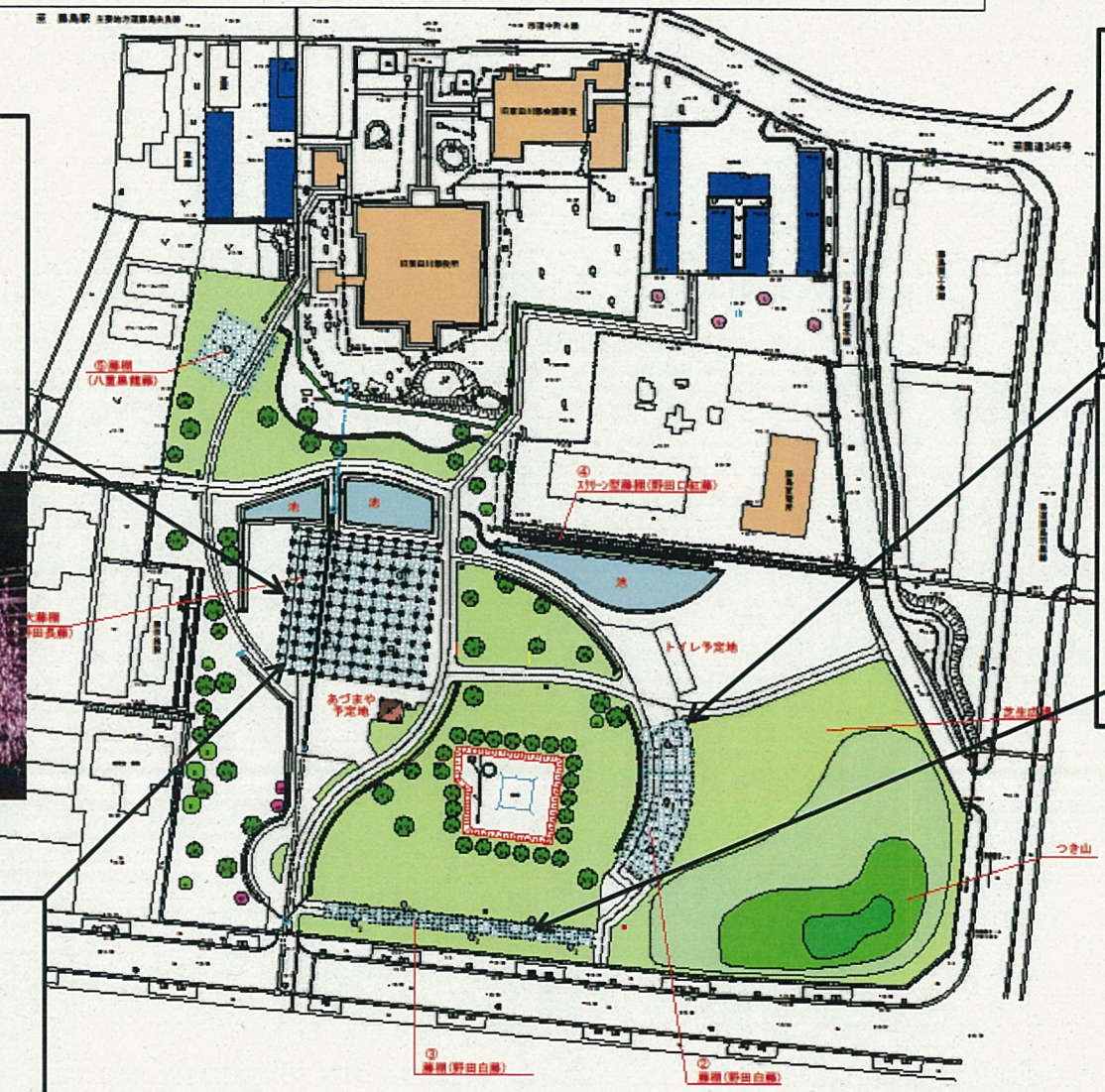
2．地域との連携による美化活動等を通じて、ふじ以外の園内の魅力が創出され、何度も来たくなる公園として交流人口が増加し、地域活性化につながる。

3．活動を通じて新たな人材と魅力を掘り起し、地域への愛着の醸成が図られるとともに、市民が主体となった利活用の体制づくりが推進される。

藤島歴史公園のライトアップとイルミネーション等に係る設置プラン

②設置場所　大藤棚
W30m×L30m×H3.0m
購入器具：イルミネーション
つらら型ライト
購入予定年度：平成 30 年度

①設置場所　大藤棚
W30m×L30m×H3.0m
購入器具：投光器　8 灯
購入予定年度：平成 30 年度



③設置場所　藤のトンネル（東側）
W9m×L33m×H2.3m
購入器具：イルミネーション
カーテン型
購入予定年度：平成 29 年度

④設置場所　藤のトンネル（南側）
W3m×L54m×H2.3m
購入器具：イルミネーション
カーテン型
購入予定年度：平成 28～29 年度

電気引き込み設置手数料
電気料金　　（建設部）

工事名	藤島歴史公園整備工事
位置	鶴岡市藤島字山ノ前　地内
計画平面図	
縮尺 1/500	鶴岡市

21

■平成２８年度「藤島歴史公園公園の観光拠点・魅力アップ促進事業」実施状況

○公園美化事業

①春（平成 28 年 6 月 12 日　参加者：106 名）

地域住民の皆さんが公園に関わりと愛着を持っていただくことを目的に、昨年度に引き続き、地元町内会（元町 6 町内会）に呼びかけ、ボランティアによる花壇などの美化事業を実施。さらに今年度は元町 6 町内会子ども会に呼びかけ、各町内会子ども会のマイプランターづくりを実施した。また美化活動には主に庄内農業高等学校で栽培した花苗を使用し当日は生徒も参加し地元の方々と交流し美化活動を実施した。

地元町内会ボランティアによる花壇美化

地元町内子ども会によるプランター花美化活動

②庄農によるプランター花美化活動

春・秋の 2 回庄農生徒がプランターを製作し、公園の入り口付近に各 20 基を設置。

○フジの接ぎ木講習会（平成 28 年 5 月 7 日　ふじの花まつり会場にて）

多くの方にフジに関心と興味を持ってもらうため、フジ棚管理ボランティア団体のメンバーが講師となり、接木の仕方・土の配合やその後の管理などについて講習会を実施

※参加者：地域内外から約 110 名

○フジ棚管理ボランティア団体によるフジ棚管理・育成

フジ棚の管理について管理協定を締結し、団体と行政との役割を確認しながら、ボランティア団体が主体となりフジ棚の育成管理を進めている